

野幌森林公園ではアライグマが増加傾向 (平成24年度野幌自然環境モニタリング調査結果概要)

北海道森林管理局では平成16年9月に発生した風倒被害を受け、「100年前の原始性が感じられる自然林を目指した森林づくり」を目標に再生活動を実施している野幌森林公園の自然環境を把握するため、平成18年度から、森林植生、歩行性甲虫相、菌類相、及び野生動物の4項目について調査を実施している。

1 調査箇所(森林植生、歩行性甲虫相、菌類相)

- (1)野幌を代表する林相を有し、風倒被害をあまり受けずに現存する「百年前の原始性」が感じられる森林(「良好な自然林」という)
- (2)平成16年秋の台風による風倒後、主として重機を用いた地拵を行った後、植樹などの森林再生活動が行われている箇所(「再生活動地」という)
- (3)風倒木を搬出後、植栽なしの箇所(「半処理区」という)
- (4)風倒後、試験的にそのまま保存した箇所(「非処理区」という)

2 森林植生

(1)良好な自然林

野幌森林内では東側の低地にみられる貴重なハンノキ優占林を調査。林分内の最大樹高はハンノキの31.57m、最大胸高直径はヤチダモの54.8cmであった。上層はハンノキが19個体を占め、他はヤチダモ4個体であった。中層はなかった。下層はノリウツギ、ハンノキなど36個体からなっていた。



植栽列外の天然更新木群
高木種が定着し、成長も著しい。

(2)風倒被害箇所および18 齢級までの人工林(再生活動地)

台風による風倒木の樹幹が搬出された後、枝條や根株の一部は植栽列と植栽列の間に堆積された。この場所(以下、枝條堆積列と呼ぶ)は植栽を伴わないため、これまで天然状態で推移してきた。今年度はこの枝條堆積列の調査を行い、天然更新木の種類ならびに樹高を調査した。

シラカンバ(樹高7.2m)、エゾノバッコヤナギ(6.7m)、オノエヤナギ(6.3m)、オニグルミ(5.7m)など、植栽された各種樹木を上回る樹高サイズを示していた。(上記写真)

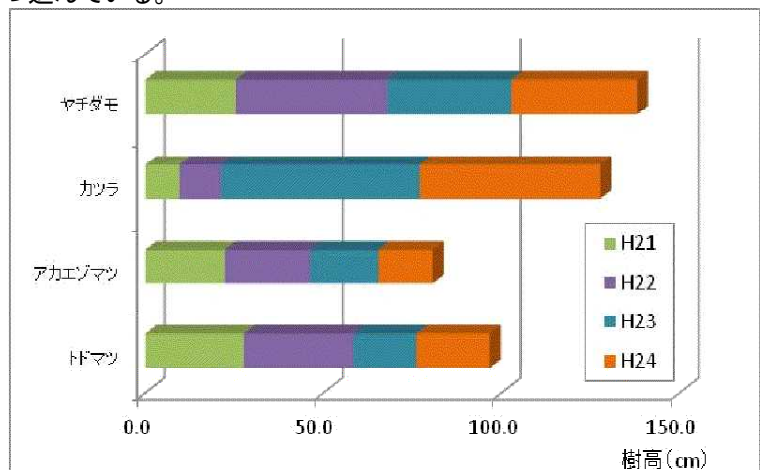
(3)半処理区

過年度にひき続き、在来種の定着が少しずつ進んでいる。

(4)非処理区

樹木の更新ではヤチダモ稚樹が多くみられるようになり、トドマツも定着し始めている。また、その一方ではオオアワダチソウなど高茎草本植物が衰退しつつある。

再生活動を実施している箇所では、「注意すべき状況」に該当する箇所は見られなかった。植栽木は着実に伸長成長を増しており、枝張りも広がってきており、特にヤチダモおよびカツラの成長が著しい(右図)。天然更新木も種数や樹高を増やしていくものと考えられ、再生段階は「第2段階」と考えられる。



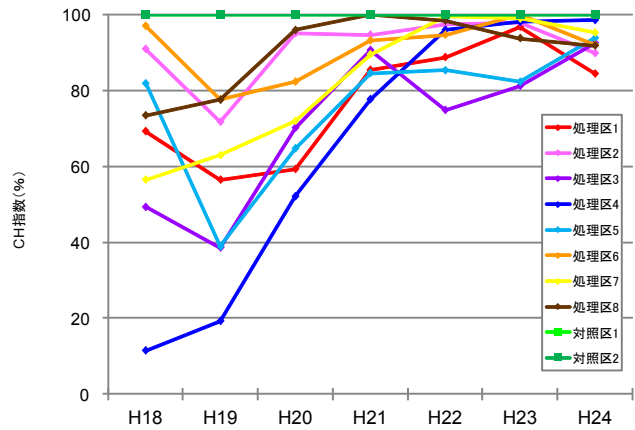
今年度調査したプロット内における植栽木の成長量

3 歩行性昆虫相調査

台風被害で生じたギャップに侵入した開放性の歩行性甲虫の割合は平成19年度がピークであり、その時期が森林の中に異質な群集が入り込んだ時期と判断される。それ以後、平成22年度にかけて、徐々にギャップエリアの群集も少しずつ周囲の森林群集に近づきつつあり、回復してきていると考えられる。

平成24年度においても前年度までと同じような状況が続いており、森林性種の捕獲割合が徐々に高くなってきている傾向は維持されていると考えられる。

総合的にみて、開放性種は依然ギャップに残っており、対照区としている自然林の割合に到達してはいないものの、本年度の再生段階は森林回復の「第2段階」に入った状況であると考えられる。



CH指数(オサムシ-ゴモクムシ個体数比)(%)

森林環境を好むオサムシ亜科

＝ 森林環境を好むオサムシ亜科＋草原環境を好むゴモクムシ亜科

4 菌類相調査

処理区において出現頻度に変動がみられた種に着目すると、スエヒロタケ、アラゲカワラタケなど年々出現頻度が減少し、天然林区や人工林区の様相に近づきつつある種もみられたが、全体的にみると依然として倒木や切り株に発生する菌類が多く、種構成は天然林区や人工林区とは大きく異なっていた。このため、再生段階としては、倒木等の腐朽が進んで回復の傾向がみられてきているが、未だ「第1段階」と考えられる。



スエヒロタケ

5 野生動物相調査

自動撮影装置を12カ所に設置し、6月及び9月に夜間撮影を実施している。撮影頻度をみると、キタキツネ、アライグマは両月ともに高く、それに次いでエゾタヌキが高かった。

調査で着目すべき種としているアライグマとエゾシカについてみると、アライグマについては、野幌森林公園の広い範囲に多く生息しているとみられる。一方、エゾシカについては、確認地点数、枚数ともに少なかった。

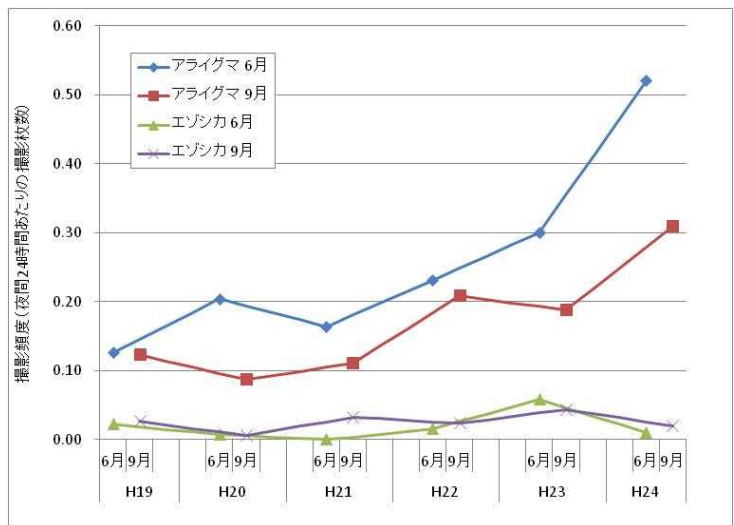
撮影頻度の推移を右図に示す。アライグマの撮影頻度については、平成22年から増加傾向がみられており、アライグマの生息数が増加しつつあることが懸念される。一方、エゾシカについては、平成23年にわずかな増加がみられたものの、撮影頻度は低く推移している。



アライグマ



エゾシカ



問い合わせ先: 北海道森林管理局

石狩地域森林ふれあい推進センター

〒064-0809 札幌市中央区南9条西23丁目1-10

TEL 011-533-6741 E-mail: h_ishikari_f@rinya.maff.go.jp